

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1950880045		
法人名	医療法人千歳会		
事業所名	グループホーム甲西		
所在地	南アルプス市田島1105		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaignokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaignokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年1月23日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム甲西は、老人保健施設、通所リハビリテーションが併設しており、広々とした環境にあります。医師や看護師による医療面での連携や管理栄養士による栄養面を考慮した食事の提供をしています。掃除など利用者様と一緒に、常に気持ち良く過ごしていただけるよう環境整備を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は医療法人千歳会が運営している介護老人保健施設ケアホーム花菱、デイケアセンター、居宅介護支援事業所併設され幅広く高齢化社会のために活動している。鉄骨3階建ての1角に施設がある。玄関には和紙で作成したお爺さんとお婆さんの笑顔の絵があり、中央の柱は羽子板が飾られ1月の季節を感じる。職員は正職員で構成され、利用者の状況の変化など適時に把握され対応されている。法人の医療スタッフにより機能低下した利用者がリハビリで機能改善しホームに戻って来た。利用者と職員が集うフロアで共に微笑みがありゆったりと流れる時間が伺える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

## 事業所名 グループホーム甲西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の定例会や研修会時などで、その都度唱和している。ご家族や地域の住民と協力しながら、安心して自立生活が続けられるよう柔軟な支援を事業所の理念にしている。	理念は職員が目につく事務所や廊下の掲示板に貼ってある。定例会や勉強会で復唱し確認しあっている。尊厳を守り安全に配慮しながら生活向上をめざす総合的に援助していく方向にそって努めている。利用者の日常の信頼と安心生活が伺えた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	田島区の一員として、お祭りや地域活動などの情報を地域の方から教えていただき、ご利用者が地域とのつながりを持ちながら暮らし続けられるように工夫している。	新年を迎え地域の獅子舞が訪問に来て利用者も大喜びで年明けを祝った。果樹地帯なので近所の農家から農作物を頂くこともあり、地域とのつながりも見受けられる。		認知症対応の地域密着型事業所の介護福祉のプロとして専門性を生かし、地域と共に生活できることを目指した活動の実践を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、日々の実践での認知症の人の理解や支援について、地域の人たちの相談やアドバイスが出来るようにしている。見学や相談はいつでも対応できる。また、実習生の受け入れも積極的にこなしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況や、サービスの実践やその取り組み状況などについての報告や話し合いを行い、そこの意見をサービスの質の向上に活かせるように取り組んでいる。	運営推進会議は市の介護福祉課、家族の代表、利用者、区長、民生委員、管理者などで2時から3時頃まで行う。市から災害対策についての話などあり気楽に話せる相互の会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員と連絡を取り合いながら、当事業所の実情や状況などをお伝えしながら、常に協力し合えるよう取り組んでいる。	市が、虐待を受け困っている人の受け入れについての相談に来たり、入居の空き部屋の連絡をくれたり、お互い連絡を取り合っている。南アルプス市の介護施設の中から、部長、副部長、防災部長の担当を決め勉強会や講演会を開催しサービスの質の向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を一切行わない旨を事業所内に掲示している。また、ご家族にも、その説明は行っている。玄関の鍵も常に空いている状態となっている。スピーチロックは特に留意し日々の支援に反映できるようにしている。	日中は施錠しないで見守り、外に出た時はさりげなく付き添ったり、なるべく利用者に何か役割を持ってもらい気持ちを落ち着かせている。職員はプロとしてスピーチロックには気をつけお互いに注意しあっている。食事が長くかかる利用者があっても待つ姿勢が徹底されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づく学習会の機会を設け、事業所内に限らず利用者の自宅での虐待が見過ごされないよう注意すると共に防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	もともと司法書士とのやり取りがある為、その都度指導や何かあれば相談に乗っていただき、アドバイスを頂いている。権利擁護の研修会にも参加している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約・改定時には、利用者や家族の意見や意向・疑問点など、一度ではなく直接何度か話し合い、理解していただけるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が頻回にある為、その都度家族からの要望をお聞きすると共に、ご本人にもその都度意見や要望を聞く機会を作っている。また、苦情に関してなども、意見が言いやすいよう、窓口を併設施設の相談員が対応し、法人内で連携して意向の反映に努めている。	家族が面会に来た時、事務所で家族に要望・意見を聞き、家族は利用者とホールや部屋で話されている。年1回利用者と家族に意向調査アンケートをとり、改善に向けての資料にしている。筆談の利用者も意見・要望を出されている。家族から部屋に施錠の希望が出されたが、理由を説明し納得してもらった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、定期的にスタッフミーティングを行い、職員の意見や要望を聞き、業務に反映できるように取り組んでいる。出席できないスタッフは事前に意見を伝え、会議の内容は議事録で周知している。	月に1回、定例会で職員の意見を聞いている。利用者の居室担当者が便のイタズラで困った件については手袋や自立の排便に向けての取り組みやチェックシートで時間を計るアイデアを出し合い改善に向け反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は、管理者やスタッフの個々の努力や実績・勤務状況などを評価し、やりがいや向上心が持てるよう配慮している。資格修得等についても、勤務時間を考慮するなどの応援態勢もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員に対して、職員の力量や段階に応じて事業所内外の研修や学習会の機会を作り、人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと交流会を持ちながら、一緒に学習会や親睦会をしながら相互の質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を受け止め、安心してもらえるよう寄り添いながら話の傾聴に努めている。「その人」を知ることが出来るよう、職員全員で関係づくりに心を配っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族が何に、どう困っているか、それぞれの思いや要望を聞きながら、一緒に考えていくことから関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期より、本人や家族の思いや、それを取り巻く状況などを確認しながら改善に向けた支援の提供を繰り返し、その方が本当に必要とするサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩でもある利用者より、普段から生活の知恵など様々な事を教わりながら利用者と職員が共に支えあいながら、暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者のみならず、家族との交流を持ちながら、家族にも寄り添い、本人の日々の出来事やそこからの気づき等を共有し、本人を共に支える関係づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て、昔から利用している美容院へ行き続けたり、実家に行ったり、お墓参りなど行かれている。	お正月には家に帰り自宅で過ごす利用者もいる。家族が馴染みの美容室に連れて行ったり年賀状書きの支援もしている。地域の友人や知人が顔を見にくる事もある。地域の花見にも法人の車で出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ、話を聴き、相談に乗ったりしながら、職員も一緒に会話の機会を多く持ち、気の合う仲間づくりや利用者同士がうまくいくよう仲介するようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、当グループホームの利用者と職員で面会に出かけたり、併設施設の相談室とも連携しながら、家族とその後 のやり取りを継続し、相談や支援している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり方に重点を置き、声かけだけでなく、仕草や表情・目線の一つ一つに気を配りながら、ご本人の意向の把握に努めている。ご家族とも連携しながら、一人一人の思いや暮らし方などの意向など検討している。	天候の良い日は外に洗濯物を干したり洗濯物をたたんだり、できる仕事をして頂く。書道の好きな人は、毎日練習に励み規律正しい時間を過ごしている。歌の好きな人は、みんなで歌えるよう音頭をとっている。畑仕事の好きな人は野菜づくりや収穫を楽しむようにしている。車いすの人も何かと役割を担っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者一人ひとりのこれまでの人生や生活歴・環境的な背景や人間関係、さらにはサービス利用の経過などを大事にして、その方の価値観や個性を尊重するよう、全スタッフで取り組んでいる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのご利用者の生活リズムや心身の状態の変化に留意しながらできることや出来ないことに注目して、その人の全体像の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、ご本人やご家族の思いや意見を聴きながら、より良い暮らしに反映できるようアセスメントや意見交換・モニタリング・カンファレンスをしながら介護計画を作成している。	介護計画は3カ月に1度見直している。利用者と家族、担当者の希望や意見を聞き安定した生活ができるようにしている。普段の生活の記録を参考に担当者会議で利用者・家族・職員の意見などにより実践評価し、次の計画の見直しに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれのご利用者の言葉やその時々エピソード、そこからのスタッフの気づき等を日々の記録に残し、職員同士の情報の共有や介護計画の見直し・実践的なケアへ活かすよう工夫している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時の状態に応じて、通院や送迎等、必要な支援を柔軟に行っている。また、併設施設の協力も得ながら、サービスを限定せず、多機能的に対応できるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	もともと、地域との交流が盛んであり、地域包括支援センター・市役所の介護課や田島区民生委員・人権擁護委員などの協力を得ながら地域ボランティアなどが多く参加くださっている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望されるかかりつけ医となっている。また、受診や通院についてはご家族の要望や状況に応じてスタッフが対応している。	理事長が医師なので利用者全体の健康を把握している。1名が巨摩共立病院をかかりつけ医とし、受診連絡書を持たせた家族の対応で受診し、医師から受診結果の返事を頂いている。往診で歯科医にかかる利用者もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情などの変化に留意し、異常の早期発見に努めている。変化等に気づいた時には、常時併設施設看護師に報告し、医療につなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合は、定期的にお見舞いをして、ご家族や医療関係者などとも連携し、速やかな退院で不安なく過ごせるように支援するようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い時期から、話し合いの機会をつくり、本人と家族や関係者の意向を確認して行っていく。そこから当施設で対応できる最大のケアについての説明を行っている。また、方針が決まれば、チームでの方針の共有をしていく。	現在は重度の利用者はいないが、重度対応の医療行為が必要な場合は併設の老健に移ることもある。入居の時に家族、本人の希望を聞き意向に沿った取り組みをするように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡方法については、話し合いにて徹底している。また、緊急時は昼夜問わず併設施設の看護師が応援に入り、共に対応する事となっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成してある。災害を想定とした訓練を積み重ねが大切なのでご利用者と共に避難訓練を実施している。地域の方々の協力体制も確立しており、近隣協力者の名前が緊急連絡網にも記載されている。	施設の大きな駐車場は、地域の避難場所として、3階の屋上は川が氾濫した時の避難場となっている。利用者が防災頭巾をかぶって夜間を想定しての避難訓練を実行している。備蓄品も倉庫にあり南アルプス消防署が来て地震体験などしている。利用者同士で助け合い避難できている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、敬意ををはらい、ご本人の気持ちを大切にしながらさりげない言葉かけやケアを心がけている。また、個人の情報についても責任ある取扱いと管理を徹底している。	トイレの誘導はチェックシート活用し、さりげなく声をかけし自立支援に努めている。日常的に使う連絡ノート、記録、日誌等は、ホールのテーブルに伏せておいている。利用者の部屋は、常に閉められていて、入る時は必ずノックして声をかけし尊厳を守っている。本人のペースに合わせるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの利用者に対して、本人がわかりやすく答えやすいような声かけや働きかけに留意している。ご利用者が自分で決めることが出来る場面をつくり、意思表示困難な方には、表情・目線や身振り手振りなど全身で発していることをキャッチしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースや思いを聴いてその思いに沿って一緒に生活させていた			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわっているスタイルを把握し、その人らしさが保てるようにしている。外出時など、気に入った帽子など着用し出かけている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は、併設施設の厨房が一括して行っている。ご飯はホーム内で炊いている。ご利用者に出来ることは手伝っていただき、準備や片付けを行っている。時々カレーなどの昼食をご利用者と一緒に作ることも行っている。職員も一緒に食卓を囲み、話をしたりしながら食事をされている。	昼食の前に誤嚥防止の口腔体操をして食事の準備をする。利用者が炊きたてのご飯を盛り付けやテーブルを拭いたり、片付けをし、毎日交代の当番が「いただきます」「ごちそうさま」の声をかけている。好きなおかずを選択できるメニューの日もあり、食事を楽しむ工夫を心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人ひとりの食事摂取や水分摂取を把握して、体調の変化と共に留意している。体調や摂取状況などに合わせて、管理栄養士と共に、食事内容や形態・嗜好品などを取り入れている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前には嚥下体操を行っている。食事後の口腔ケアは、ご自分でできる方には、声かけ見守りをし、出来ない方にはお手伝いしている。また、毎週訪問歯科医が見えられている為、口腔内の状態を診ていただいている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し尿意の無い方にもパターンを把握して、ご本人のプライドを守りながらそっと言葉かけをしながら、トイレでの排泄支援をおこなっている。	トイレは排泄チェックシートを活用し、一部介助の必要な人もいるが、最小限での支援に努められている。主にリハビリパンツ、尿とりパットを使用している。下痢気味の時には、職員全員が気を付けて、声かけ誘導で対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や量を毎日チェックし、十分な水分補給や食物繊維の多い食事の提供を心掛けている。また、適度の運動や散歩を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めての入浴となっている。時間帯については、ご利用者の希望に合わせている。ゆっくり入りたい方には、ゆっくり入浴できるように利用者のペースに合わせて入っていただいている。プライバシーにも配慮しながら行っている。	広くて大きいバスルームで週3回の入浴が出来る。背中を流したりの支援をするが2人で気持ちよさそうに入浴する利用者もいる。柚子を頂いた時は柚子風呂を楽しむこともある。拒否のある場合は、順番や担当を変えたり、言葉がけに工夫し入浴される。ゆっくりした入浴を楽しまれている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごしていただき、生活のリズムを整えるようにしている。眠れない利用者には、ホットミルクを飲んでいただいたり寄り添って話を聴いたりしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方説明書をそれぞれのファイルに綴じて、いつでも確認出来るようにしている。また、内服薬の変更があった場合には、連絡ノートに記載してスタッフ全員が把握の徹底に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食事の後の片付けなど出来る家事を行っている。楽しみごとはそれぞれ個々に書道など楽しんでいただいている。また、利用者同士の交流を兼ねて、ホールで歌やゲームなどを楽しんでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者に行きたい場所などを聞き実現できるようにしている。また、併設施設の協力を得てバスハイクなどへも出かけている。毎日外気浴や散歩をおこない季節を感じたりしながら、気分転換を図れるように支援している。	天気の良い日は近所を散歩する。桜やアジサイの花の時期には見学に出掛ける。富士川の道の駅の展望台に上り景色を眺めて来た。近くの保育園に出向き祖父母の交流会に参加して園児から肩を叩いてもらい嬉しさでこぼれるほどの笑顔になった。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得ながら、新聞代など御自分で管理されお支払いしている利用者もいる。ご家族から、お金をお預りホームで管理している方でも、買い物時など、御自分で払っていただけるよう工夫している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話やお手紙を出せるように支援している。電話やお手紙を出すところが併設施設にある為、スタッフと一緒に行かれている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、いつでも気持ち良く過ごせるように、環境整備を行っている。花や飾り、貼り絵など季節感を感じてもらったり、和んでいただけるような雰囲気づくりをしている。	フロアにテレビが置かれ、広い畳の場所もある。もうすぐ2月節分を前に豆まきに使う鬼のお面を作っている所だった。仲良しの友達と会話したり歌ったり窓から見える景色を眺め穏やかな表情から居心地の良さが伺える。口型に配置された通路の周りには絵画や写真や利用者の書など掲示されていて、通路が美術館のように見学できる構造になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファーやテーブルを置いたり、畳のスペースもあるので、それぞれがお好きな場所で思い思いに過ごせるように工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の希望に応じて、壁には写真などを飾り、テレビやソファー・テーブルなど置いていただき、ご自分だけの空間の中で安心して暮らしていただけるよう工夫している。	部屋にはのれんがあり0丁目0番地の住所表示がある。部屋は、障子と洗面台と鏡があり、備え付けのベットと整理タンスが置かれている。家族の写真や習字などが貼られ、利用者が安心できる居場所づくりを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの心身機能の変化に考慮して、その利用者にあった生活環境や不安や混乱のないようなケアの工夫をしている。出来ないことに注目するのではなく、ご自分の力を活かして働けるよう、そっとサポートするようにしている。			